

2025年度
バイエルン青少年オーケストラ合宿・演奏会成果報告書

学年	専攻 (楽器等名)	担当楽器	期間
1	器楽専攻(コントラバス)	コントラバス	夏期
1. 実施概要(具体的に)			
1週間のオーケストラ練習 朝:パート練 昼:合奏か分奏 夜:パート練 4日間の演奏会 (教会2日、野外1日、ホール1日)			
2. 研修を通じて自身が得た成果			
最初は緊張もありましたが、演奏を重ねるごとにメンバー同士の絆も深まり、音楽がどんどん楽しくなっていくのを感じました。特に、国籍や言語が違っていても、音を通じて気持ちが通じ合う瞬間はとても感動し、音楽の力を改めて実感しました。			
3. 反省点			
緊張で練習初日あまり上手く弾くことが出来なかったことです。			
4. 今後の参加者に伝えたいこと(持ち物、事前学習等)			
弦楽器の人は試験直後で大変ですが、譜読みは早めに初めておくのがいいと思います。また、タオルや洗濯用バサミ等は絶対に持っていくべきです。			

2025年度
バイエルン青少年オーケストラ合宿・演奏会成果報告書

学年	専攻 (楽器等名)	担当楽器	期間
2	器楽専攻(コントラバス)	コントラバス	夏期
1. 実施概要(具体的に)			
マーラーの交響曲第6番のパート練習、合奏、演奏旅行を行いました。その他には、BBQをしたり、コンサートを聴きに行ったり、湖に行ったりしました。			
2. 研修を通じて自身が得た成果			
音楽の本場であるヨーロッパに行き、その場の空気感や雰囲気、風景や雷雨の音など作曲家がこのような場所で曲を書いたと思うと日本にいた時より弾き方や曲に向かう姿勢が変わったような気がします。また、バイエルン放送交響楽団のコントラバス奏者・フィリップス氏にパート練習を見てもらい、弓の使い方や弾く位置、フィンガリングの方法を細かく教えていただき奏法のレパートリーの引き出しが増えました。そして合奏に参加して、現地の人々の息遣いやノリなどを感じ、今後の演奏活動に活かせることが多くありました。			
3. 反省点			
反省点は言語です。この合宿が決まってから学校のドイツ語の授業以外にアプリを使って勉強はしたのですが、うまくドイツ語で話ができませんでした。もっと話せていれば現地の人とコミュニケーションを取れて仲良くなれ、学びも深まったと思います。			
4. 今後の参加者に伝えたいこと(持ち物、事前学習等)			
今後の参加者に伝えたいことは、事前にちゃんと譜読みをして練習をしていくということです。遊びに行くわけではないので、しっかり準備をしていった方が勉強になるし、楽しいと思います。大学から補助を受け派遣参加しているので、それに恥じない行動をしてほしいと思います。			

2025年度
バイエルン青少年オーケストラ合宿・演奏会成果報告書

学年	専攻 (楽器等名)	担当楽器	期間
2	器楽専攻(コントラバス)	コントラバス	夏期
1. 実施概要(具体的に)			
バイエルン青少年オーケストラ夏期合宿(8月1日～8月12日)は、8月1日にミュンヘンで集合し、8月9日までイタリア・エッパンの合宿所にてバイエルン青少年オーケストラのメンバーと共に、バイエルン放送交響楽団団員の指導のもと、パート練習とオーケストラリハーサルを行った。その後、クリードルフに宿泊先を移し、8月12日にミュンヘンにて解散した。期間中にエッパン、ステルツィン、リンダウ、スルツバッハローゼンベルクにて公演を各1回計4回行った。			
2. 研修を通じて自身が得た成果			
・2回目の参加、また、ドイツ語を履修していたため、ドイツ語の指示にも戸惑わずに対応でき、より多くを吸収できた。 ・昨年は4曲を扱ったが、本年はマーラーの交響曲第6番のみだったため、一曲を丁寧に考察することができ、楽章間の繋がりや楽器同志の関係性をより深く理解できた。 ・昨年とは異なる教会で演奏したことから、教会による音の響きの違いも貴重な学びとなった。 ・昨年に引き続き、ドイツの生徒の音楽への姿勢(どのように弾きたいか自分の意見をしっかりと持っており、リハーサル中にも指揮者に直接自分の考えを伝えていた)を目の当たりにしたが、本年は受け身にならぬよう積極的な発言を心がけ、実行できた。 ・自分が理解できているか不安な点については、必ず楽譜にメモし、同じプルトの学生に確認してもらった。また、積極的に英語で質問したことで、より良い演奏やコミュニケーションの形成につながった。			
3. 反省点			
・昨年の経験を活かすことができたため、特になし			
4. 今後の参加者に伝えたいこと(持ち物、事前学習等)			
・持ち物は、日本食や海外対応ドライヤー、プラグ変換器、虫よけ剤(夏期の場合)、部屋干し用ハンガーが必須だと感じた。 ・事前学習については、ドイツ語の基本的な音楽用語、会話表現、数字は覚えていき、余力があれば、発展的な表現まで覚えられるとスムーズにレッスンを理解できると思った。			

2025年度
バイエルン青少年オーケストラ合宿・演奏会成果報告書

学年	専攻 (楽器等名)	担当楽器	期間
2	器楽専攻(チェロ)	チェロ	夏期
1. 実施概要(具体的に)			
ドイツでバイエルン青少年オーケストラの皆さんと合流し、数時間かけてイタリア・エッパンへ移動。約1週間エッパンでバイエルン放送交響楽団の団員の指導によるパート練習や本番指揮者によるオーケストラ練習を行った。その後、イタリアとドイツの両方で計4回の演奏会を行った。			
2. 研修を通じて自身が得た成果			
・ドイツ人と直接話し、文化や仕草、考え方の違いを多く感じた一方で、同世代の学生として、同じだと感じることもたくさんあった。多くのメンバーが、私の不完全な英語に耳を傾け、理解しようとしてくれたり、ドイツ語での指示を英語で教えてくれたりして、英語で会話するという経験ができた。 ・初めて教会や野外で演奏し、響き方の違いを感じ、合わせることに難しかったが、風の音や人々の生活音を感じながら演奏するという経験をする事ができた。			
3. 反省点			
・もう少しドイツ語を学んでから行くとさらに良かったと思う。 ・雨具が1つでもあると安心だった。 ・電車の乗り方をもっと詳しく調べておくべきだった。			
4. 今後の参加者に伝えたいこと(持ち物、事前学習等)			
・前半、とても気温が低かったので、パーカーなどがあると良い。他には、虫よけスプレー、虫刺されの薬、変換プラグ、海外用ドライヤー、クレジットカード、現金等。 ・日本のお菓子をあげると喜ばれるので、ぜひ持っていくと思います。			